

**志摩市子育て支援に関するアンケート調査
調査結果報告書
【団体等アンケート】**

**令和6年7月
志摩市**

目次

I. 調査の概要	1
II. 調査結果	2
1. 貴団体等の活動内容などについて	2
2. 貴団体等の現状と課題について	5
3. 子どもの意見の反映について	8
4. 今後のまちづくりについての要望・提案（ご専門の分野に関して）について	11

I. 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、日頃より市内でご活躍をされておられる団体等を対象として、「団体等アンケート調査」を実施し、「第3期志摩市子ども・子育て支援事業計画（2025年度～2029年度）」を策定するに当たっての基礎資料とします。

2. 調査対象

市内の団体等の方

3. 調査時期

令和6年6月

4. 調査方法

郵送による配布・回収及びデータ回答

5. 回収結果

配布数	有効回答数	有効回答率
28	21	75.0%

回収等（略称・敬称略）

子育てクラブ志摩リズム	片田っ子クラブ
地域しあわせ支援ボランティアおひさま	食育サークル“元気ッズ”
しま子育て応援団	ささゆりキッズサロン
志摩夢まちサポーターズ 子育てサロン	しまの杜こども園
考えよか志摩の図書館	児童クラブ鵜方小学校前
おおきんなキッズクラブ	志摩市ファミリー・サポート・センター
とっぴんぱらりのぷう（こつぷっち）	志摩市施設長会
クラブ志摩 志摩陸上クラブ	子育てサークル わらじっこ
のぞみ会	浜島・磯部放課後児童クラブ
傾聴こころ親子食堂	社会福祉法人 志摩市社会福祉協議会
志摩夢まちサポーターズ子育てサロン	くらしサポートセンターふんばり

6. 数値等の基本的な取扱いについて

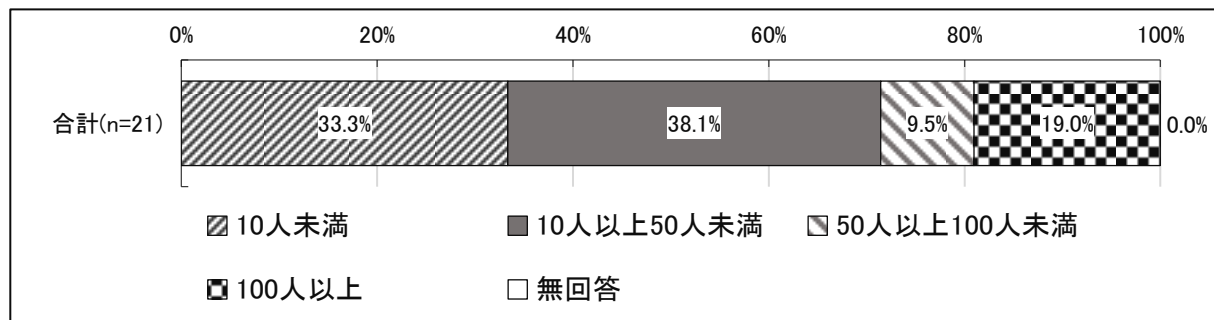
- 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
 - 複数回答が可能な設問の場合、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問であり、したがって、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
 - 文中、グラフ中の選択肢の文言は作図等の都合により一部簡略化する場合があります。
- ※各ご意見は、回答用紙特有の記載（上記→前問）等を除きほぼ原文のままとしています。

Ⅱ．調査結果

1. 貴団体等の活動内容などについて

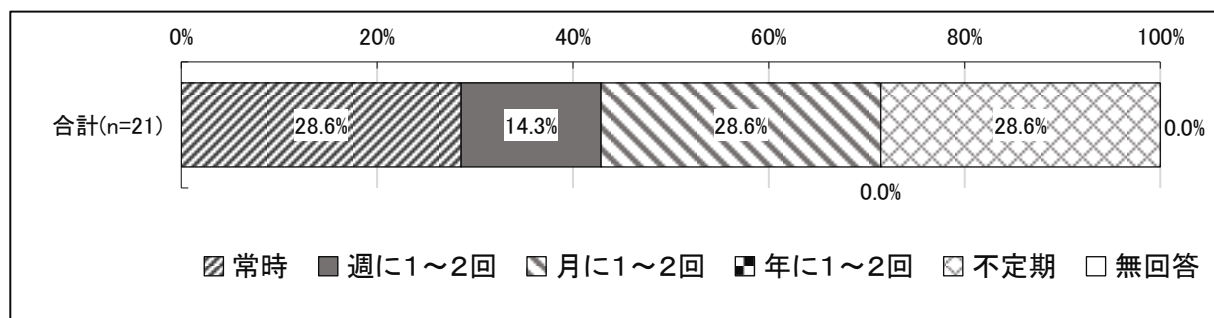
会員数

「10 人未満」の割合が 33.3%と最も高く、次いで、「10 人以上 50 人未満」(38.1%)、「50 人以上 100 人未満」(9.5%)、「100 人以上」(19.0%)となっています。



活動の頻度（あてはまる番号に○印をつけてください。）

「常時」の割合が 28.6%と最も高く、次いで、「週に1～2回」(14.3%)、「月に1～2回」(28.6%)、「年に1～2回」(0.0%)、また、「不定期」の割合は 28.6%となっています。



【不定期 過去1年間の回数】

- ・ 3回
- ・ 6回
- ・ 6回（隔月（奇数月））
- ・ 10回
- ・ 15回

主な活動内容をお書きください。

- 小学生を対象にレクリエーション、食事提供
- 視覚、身体障がい者の社会参加支援
- 季節の野菜（食材）での、調理実習
- 室内での食事会、屋外での芋掘り、花見等
- 子育て中の親子の交流の場を提供する。
- 絵本の読み聞かせ
- 子どもの居場所づくり
- 放課後児童クラブ
- ふんばり子育てはっぴい隊
- 子ども用品リユースステーション「YOTTECO」の運営。子育て中に使うもの（子ども服、おもちゃなど）のリユース活動をしています。お得に、必要なものが手に入られるという目的ができることにより、支援・交流の場に出にくい人が出てくるきっかけとなるのではないかというねらいがあります。また、物を選ぶということをきっかけに、来店者同士の交流も生まれています。
- 子育て応援講座の開催
- 月例会で図書館や学校図書館、読書事情などの情報交換。学校図書館充実のための学習会の開催。市立図書館イベントとしてビブリオバトルの実施に協力、等。
- 珠算・英語・プログラミング・学童
- 子どもの育成 子育てサークル
- 水曜日 16 時から 17 時 30 分東海中学校運動場で陸上練習、土曜日 9 時から 11 時まで陸上練習
- 子ども食堂
- 0～3 歳児とその兄弟児を対象に、遊び場の提供や季節のイベントを楽しんでいます。
- 認定こども園での保育・教育
- 送迎のサポート
- 0歳児から5歳児までの保育・教育
- 放課後児童クラブ

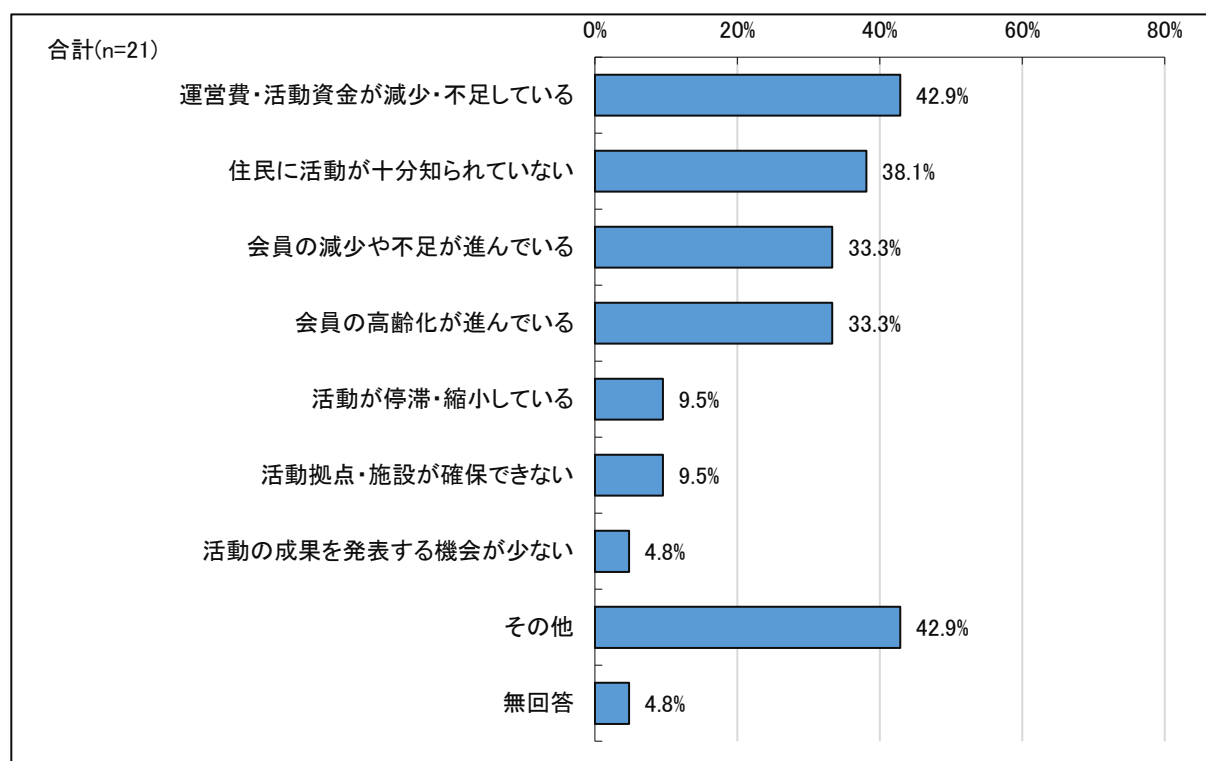
主な活動場所をお書きください。

- 穴川公民館
- アリーナ、かがやき
- 社協「かがやき」
- おりきの松公園、多目的集会施設及び個人所有の畑、庭等
- 大王公民館
- 図書館
- 片田共同福祉施設
- 浜島＝浜島小学校、磯部＝川辺コミュニティセンター
- 志摩市内
- 子ども用品リユースステーション「YOTTECO」
- 公民館等
- あすぱ～る
- 関西珠算学院
- 鵜方公民館 志摩市内貸切できる飲食店
- 水曜日 東海中学校、土曜日 神明小学校
- 大王町 自宅
- 志摩町内
- 布施田コミュニティ
- しまの杜こども園
- 依頼会員宅から保育施設や学校や児童クラブ、駅、バス停
- 4保育所、4こども園、1 幼稚園
- 市内公立5つの放課後児童クラブ

2. 貴団体等の現状と課題について

【1】貴団体の活動に関連して、現在困っていることや悩んでいることは何ですか。
次の中からあてはまるものすべてに○印をつけてください。

「運営費・活動資金が減少・不足している」の割合が42.9%と最も高く、次いで、「住民に活動が十分知られていない」(38.1%)、「会員の減少や不足が進んでいる」「会員の高齢化が進んでいる」(同率33.3%)の順となっています。



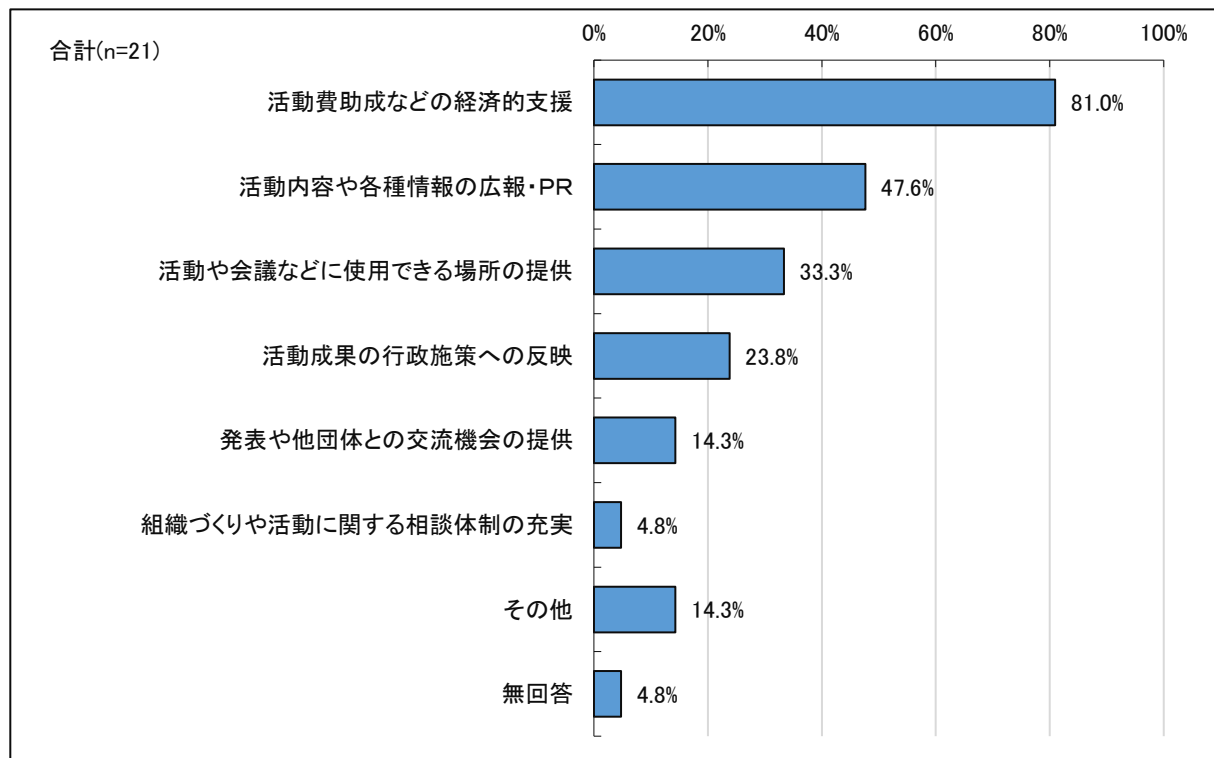
【その他】

- ・ 講師依頼につき、補助金がほしい。
- ・ 現在、活動拠点としている大王公民館には、おむつ替え台や子ども用トイレがない。多目的トイレはあるが、暗くて、冷たい感じがする。女性トイレも便座が冷たく使いづらい。授乳室もないので、(親子が使用することを想定していないのだと思うが) 不便である。だれでも利用できる公民館にするために、せめて、多目的トイレは、ユニバーサルデザインなものにしてほしい。
- ・ 活動場所を決める時に、大切な子ども達をお預かりするので、安全な場所と思い、高台の片田社会体育館を使いたいと思い、昨年1月に代表の方にお会いし、月に1度第3土曜日9時～12時まで貸して頂きたいと申し出たのですが、ダメだと言われ、じゃあ、土曜日の午後1時～4時まででは？と伺った所、今後子供卓球を作るからダメだと言われ、親にB & Gまで送らせれば、いいやんか、「B & Gに行け」と言われました。私は、子どもが安全な場所で遊ばせたかっただけなので、とてもショックでした。自治会にこの事を伝えたら、共同福祉施設を貸して頂き、今に至っております。「津波」がきたら高台に逃げる事を子ども達と一緒に、避難訓練をしていかなければと考えております。

- ①放課後児童クラブの受け入れスペースが限界に近い。磯部放課後児童クラブの児童の活動スペースが狭いため、安全性への懸念がある。②トイレの課題。男女共同トイレのため、プライバシーの配慮が必要。③津波浸水地域という課題がある。
- 今のところはふんばり担当のみで月1回の訪問を実施しているが、今後さらに増加した場合における訪問者の確保について課題がある。はっぴい隊の活動は、物品等の提供を通じて対象世帯とつながる活動を目的としているが、その訪問ツールとして使用する食料及び日用品等物資の確保は不十分であり、その確保方法に課題がある。
- 運営メンバーは小学生までの子どもがいる親や、妊娠中の方など、子育て真っ最中の人たちです。ですので、子どもの予定、体調不良や自身の妊娠出産などが重なると活動日数が限られてしまいます。“YOTTECO” 営業する日には 10 組前後の利用がある日が多く、必要とされている場所だと感じています。しかし、営業日数が少なくなったり、急遽休みにすることになることがあり、心苦しいです。
- 子どもを持つ保護者や一般の市民など幅広い立場からのメンバーの参加が得られていない。
- 次世代に引き継ぐ方がいない。(子どもが小学生にあがり活動できてもあと5年、運営を手伝ってくれる方、リーダー候補がいないのが現状)
- 低年齢から預けたい家庭が多く、家庭背景として困り感を持っていたり、保護者支援が必要な家庭が多い。
- 低年齢の長時間保育希望が多く、子どもへの対応もより必要。
- 地域との関わりがうすい環境である。

【2】貴団体の活動の充実をはかる上で、行政（志摩市）にどのような支援を期待しますか。次の中から3つまで選んで、番号に○印をつけてください。

「活動費助成などの経済的支援」の割合が81.0%と最も高く、次いで、「活動内容や各種情報の広報・PR」（47.6%）、「活動や会議などに使用できる場所の提供」（33.3%）、「活動成果の行政施策への反映」（23.8%）の順となっています。



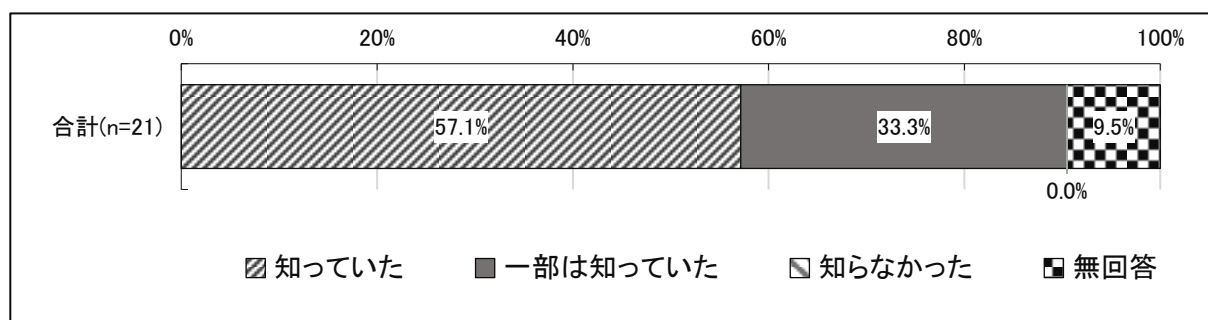
【その他】

- 行政では、同じ部であっても、課が違えば「隣は何をする人ぞ」になると聞いています。花見は、いきいきサロンと共催です。高齢者は子ども達とふれあえる唯一の機会を喜んでいますが、今は、町で子どもと会える機会がありません。市としては、いろいろな年代の人達がふれあえる催しをお願いします。
- 設問2の現状と課題があるため、児童の過ごし場の確保と、安全面について協議したい。（担当者からはたらきかけを考えている）
- ファミリーサポートセンターさんと共催で講座を開催させていただいています。広報や場所の確保など大変助けていただき感謝しています。

3. 子どもの意見の反映について

【1】「子どもの権利」を守るための国際条約として「子どもの権利条約」がありますが、子どもの権利条約の基本的な考え方は、下表の4つで表されます。それぞれ、条文に書かれている権利であるとともに、あらゆる子どもの権利の実現を考える時に合わせて考えることが大切な、「原則」とであるとされていますが、下記に示すこの内容についてご存知でしたか。

「知っていた」の割合が57.1%と最も高く、次いで、「一部は知っていた」(33.3%)、「知らなかった」(0.0%)となっています。



【1】-2上記の4つの原則のなかの「子どもの意見の反映」について、どのような機会をつくったらいいと考えますか？適切と思われる方法を自由にお書きください。

「子どもの意見の反映」するための機会については、「子どもの意見を聞く」、「子どもと交流する」、「子どもの権利について、親や大人が学ぶ」などについて多く記載されています。

詳細につきましては、以下の通りとなります。

- 事業を開催するにあたり、子どもとの話し合いの場が必要だと思う。
- 調理以外に戸外でお花見、芋苗植え、芋ほり、もちつき大会等を行っています。その中で、ひとつひとつやっていく中で、子どもたちに昔からの風習、習慣、農業の楽しさ、作物の成長をみている事でいろいろ子どもの声を聞いていくことが大切だと思います。「これな～に？」「なんで？」「なんでやろ？」「おなしいな？」etc. いろいろなことばに耳を傾けていくことで、大きくなるまでに大人に対して話せるようになるのでは、常に子どものことを聞くこと。
- 子どもの発達はいろいろな経験で積み上げられていますが、自分の意思を持って言える意見を形成するには、狭い世界より広い出会いが必要と感じます。一部の偏った人だけではなく、多くの人と出会える場があるとよいかと思います。
- 子どもアドボケイトを養成して、定期的に学校等を訪問する。子どもの権利条約を広く世間に知らせる。
- 命の大切さ、自分が差別されたら、どう思うか？などの課題をクラスで話しあって子どもの意見を聞く。
- ①子どものワークショップの実施＝楽しく意見を交流する機会をつくる。②子ども夢BOXの設置（日頃感じていることや困っている事の意見を入れるBOX）
- 親が理解し、学ぶこと。子どもが意見発信できる機会。
- 子どもしか書けないSNSを作り、大人の意見が入らないようにAIに分析させる。
- 子どもの権利という事をもっと深く浸透させるために、大人も子どももそれぞれに、研修などで学ぶ機会がほしいです。
- 大人も子どもも本を読む、読まない、何を読むかまで、本人の自由であって強制されるものではない。その上で、図書館では自由に関する宣言によって活動を行っている。
- 特に子どもに対しては、充実した読書環境を整え、楽しい読書を体験させた上で、一人ひとりの読みたい想いを叶えるための準備を行う必要がある。このことが、子どもの意見の尊重であり、何歳であっても大切なことである。
- 学校教育や義務教育のあり方が未だに“平等”指導法であり、これは「公平」とは言えない。同じ学年や年齢であっても人によって能力の差はあるのだから、そこを認め「公平な学びの場」を子どもたちに提供してほしい。それが実現すれば、子育て世代の保護者からすると住みやすい町になる。この志摩市からそういった公平な学びを発信してほしい。
- まず、大人が子どもの権利四つの原則について知らない人が多いと思うので、勉強

会を開くとか、意見交換会を開くとかして、子育て世帯がどのような考えを持っているかを聞いた方がいいと思います。そのうえで子どもたちにどんな体験を与えたら有意義か、わかるはずです。

- 練習中や練習後に話をする機会を持つ。
- 子どもたちが自由に発言する場を作り、直接子どもたちから話を聞き、子どもたちの想いを知る機会を作る。
- 施設をまわって様子をみてもらったらどうかなと思います。
- 保育所では、子どもの最善の利益を尊重するために、常に子どもたちの様子を把握し、姿の背景にあるものを知るため、子どもの声をはじめとし、仕草や表情などあらゆるところから子どもを理解する努力をすることで、子どもの意見の尊重につながっているの、そのことについて折を見て職員間で共有したり、必要に応じて保護者に伝えていく役割があるのだと考えました。
- 子どもたちが、素直に自分の思いを出せる環境を作ることから始める。子どもたちの思いを取り入れた活動を行なう。
- 市役所の職員が、子どもが生活する施設で共に過ごす機会を持つ。
- 市の職員さんと子ども達がふれあう会を企画するのはどうでしょうか。
- こども園や保育所、幼稚園等の見学をし、行政の方も保育をわかってほしい。
- 一緒に遊ぶ中でこどもの生の声を知り、何に興味を持つかを知る機会を持つ。”
- 日々の生活が大切と考え、子どもたち一人ひとりとの信頼関係を丁寧に作っていく。子どもが自分の意思や意見を素直に出し、表現できるような関係づくり、安心して生活できる環境づくりに努める。その為には、子どもへの関わり方、職員の気持ちの安定や、心の余裕、職員研修等が大事と考えます。
- 日頃から、おやつや長期休暇時・季節の行事の際のイベントについて子ども達からしたいことや欲しいものを発信してくるので丁寧に聞き取り実現できるようにしていく。
- 児童クラブ内では、子どもが自分から意見を言いやすい環境づくりを大切にします。自分から意見が言える姿を認め、意見を否定したり無理に言わせたりするようなことはしないように気をつけます。それを行うための大人が学ぶ機会をもつことは必要だと思います。
- 児童の意見を定期的に聞き取る。好きなおやつ。したい遊び（夏祭り、ドッチボール、お楽しみ会など）その中から、実現出来そうなものは、児童と相談してすすめていく。出前教室などで、直接児童の意見などを聴ける機会をもつ。
- 児童に、志摩市の環境や政策など話す機会を持ち、意見を聴くようにする。

4. 今後のまちづくりについての要望・提案（ご専門の分野に関して）について

ご自身の専門分野や地域から志摩市に対する要望・提案

ご自身の専門分野や地域から志摩市に対する要望・提案については、「ボランティア同士の交流」、「補助・助成金・経済的支援」、「子どものサロン」、「乳幼児の遊び場」、「徒歩通学のための整備」、「他地域との交流」、「子どもの遊び場」、「地域の連携」、「学校の余裕教室の活用」、「預かり保育の体制を拡充」、「子どもの遊び場（支援センターの改善）」、「子どもの権利保障」、「図書館の充実」、「障害のある子に適した学びの提供」、「子育てサポート」、「対人関係」、「公園の設備の充実化」、「病児保育の充実」、「人材確保・支援」、「預け場所の改善」、「支援の提供方法」、「情報提供方法」、「学力向上」、「保育士不足」、「就業の確保」、「放課後児童クラブの立地」、「人材の確保」などについて記載されています。

詳細につきましては、以下の通りとなります。

- 子ども対象のボランティア同士の交流。
- 講師料、交通費がないので、補助してほしい。
- 校区内での子ども対象のサロンが必要（広範囲では参加者が限られる為）。
- 障がい者支援をしています。昨年度より、障がい者支援助成金がもらえません。外出する際にはヘルパー等の利用がないと出掛けられません。三重県の身体障がい者大会（今年は松阪市）、視覚障がい者福祉大会（名張市）で開催されます。しかし、助成金がないので交通費ができません。バスが1台必要ですが、障がい者だけでは、負担することが出来ません。何とか交通費だけでも支援していただければ参加出来ます。三重県大会ですが、参加出来ないのは志摩市ぐらいです。社協、市役所の皆様のお力添え願います。
- 公園で遊ぶには、まだ早い乳幼児のために、室内で安心して遊ばせることができたらいなといつも思っています。伊勢市のハートプラザみそのには、乳幼児が遊べる部屋があって、開館時間内は、いつでも、だれでも利用できるようになっています。志摩市にも、そのような場所がほしいです。
- 徒歩で通学する子どもが年々少なくなっていると感じています。歩かないことで、様々な弊害があると思います。是非、徒歩通学をすすめてほしいです。そのために安全な通学路を!!（道路の清掃や草刈を市内一斉に行うとか、交差点での交通安全、見守りを市内で一斉に行う日を決める とか）また、通学路の途中に、子どもが休憩できる場所があるといい。15年ほど前には、民家の庭先で、子どもが休憩していたものですが、今は見たことがない。
- 子どもの人数がどんどん減っていきます。様々な知識・体験・好奇心を満たす場もどんどん狭くなっていきます。オンラインで、他地域の子も達や志摩にない業種や取り組みなどと会話できる場を考えて欲しいと思います。ここでできる事は限られています。大人が枠組みを作りたい。市町村がバックアップして、視野の広い、行動力のある子ども達を育てて欲しいと思います。そして、他地域との交流で志摩の活性化に進めれば、尚うれしいことです。

- 私がクラブを立ち上げたキッカケは、片田は、小学校、中学校が閉校となったので、校庭がでこぼこだったり、草だらけで子どもが外で遊ぶ所が全然無いので、我が家にいつも 10 人ぐらい来て、家の中でゲームするので、家族が居る場所が無くて困っているの、何とかしてほしいと言う、親からの訴えでした。校庭の草むしり。整備をする事を考えたのですが、とても私達の力では何ともなりません。私も協力させて頂ますが、何とか、片田の子ども達が安全で広々とした所で、ボール遊び、サッカー、かけっこなど、体を動かせる場所をつくってほしいです。お願いします。
 - 児童の健全育成。子育て、保護者の就労など放課後児童クラブは地域に欠かせない資源であることと利用家庭はもとより、小学校地域の自治会、市内の活動団体との連携が大切であると考えている。
 - 設問2の課題への提案として、こども家庭庁が勧めている学校の余裕教室の活用が望ましいので、要望する。現状の活動スペースの容量に限界を感じているため。児童の安全面、過ごしやすい場の整備の必要性がある。
 - はっぴい隊活動を利用している世帯の中には、児童手当や児童扶養手当等の手当収入のみで生計を立てている方もいるが、それで満足しているわけではなく、働いて収入を得たいと考えている。しかし、子育てとの両立が難しく、時間や日数が限られてしまう（特に子どもに障がいがあると、さらに条件が厳しくなる）。その結果、条件に合う求人が見つからず生活困窮状態から抜け出せない。そのため、子育ての心配なく、求職活動や仕事ができるような預かり保育の体制を拡充できないか。
 - 子ども園と敷地が一緒ではない子どもを連れて遊びに行ける場所があるといいと思います。支援センターがあるじゃないかと言われるかもしれませんが、利用しづらいというのが現実の声だと思います。理由は複合していろいろあると思いますが、いくつか今までに聞いたもの、思いつくものを挙げると、
 - ・駐車場から離れている。特に雨の日は小さい子を連れて行くの大変。
 - ・自分の家の近くのところを利用したいが、上の兄弟がいると行きにくい。
 - ・ほかの子は親と離れて来ているので、“なんで、あの子は親と遊びに来ていているの？”などと子どもたちが思うのがかわいそう。
 - ・初めて行く場所で、初めて会う人ばかりのところに行くの億劫。などがあります。
 また、それ以外の困った声として、
 - ・雨の日の遊び場に困る。
 - ・小さい子を連れて、土日に遊びに行く場所に困る。などがあります。
- そこで、以下のような遊びに連れていける場所があるといいと思います。
- ・子ども園、幼稚園、保育園とは別の場所にある、独立した建物。
 - ・室内に常に、アスレチックなどの体を動かせるおもちゃを設置した遊び場。
 - ・支援員は常になくてもよい。受付の人がいるという程度でよい。
 - ・土日営業している。むしろ、平日は休みでもよい。
 - ・就学児も利用可能。

私たちの運営している「YOTTECO」、まあまあ利用者数がある方だと思います。最近の利用者が多すぎて、来た人とおしゃべりしながら、遊びながらみたいなのが難

しかったりします。きっかけがないと支援センターなどもなかなか行きづらかったりすると思います。そこで、YOTTECO の営業日に支援センターの先生方に来ていただいて、自分の勤めている支援センターへお誘いするのなどはいかがでしょうか？

- 子どもの権利を保障するために、子どもが育つ環境に心配のあるご家庭は特に、子どもが成人するまで、または問題が解決されるまで、違和感なく福祉制度や医療、人とつながり続けたいと思ってもらえる環境をつくる必要があるではないでしょうか。なぜなら、申請主義とはいえ、大人が申請や関わりを望まなければ、子どもの権利は保障されない状況が継続されてしまうからです。

健康福祉部の、健康推進課(志摩市子育て世代包括支援センター)とこども家庭課の連携やアウトリーチ支援があると思いますが、他にも何か良い手立てや仕組みはないでしょうか。取り組み例としましては、フランスの家庭経済ソーシャルワーカーの働きがとても参考になると考えています。リスク家庭以外も利用でき、専門職がその役割を担っています。リスク家庭以外も利用できることは、偏見を軽減するとともに、虐待予防につながる一つのつとと考えます。子どもの権利が保障されている志摩市であることを望みます。

- 子どもたちが保育園から高校まで定期的に年齢に応じた性教育が受けられるようにお願いします。年齢に応じた性教育はパーソナルスペースやプライベートゾーンの認知から始まり、友達との関係性、異性との恋愛、精つう、生理、自慰、性行為、避妊、性感染症などその年齢に応じた性を学ぶことで、性暴力、若年妊娠、虐待、DVなどを防ぐことに繋がると考えられます。性教育は人権教育。性を学ぶことで自分が唯一無二の大切な存在であることを知り、周りの人も大切な存在であることを知ることが出来ます。ぜひ学校でカリキュラム化された専門家による性教育をお願いします。
- 図書館の充実が志摩市の魅力を伝えるための大きな力になると感じます。特に志摩市に魅力を感じて他から移住して来る人にとって、図書館の充実は、志摩市の魅力のバロメーターになると思います。外部からの意見や行動力が上手く活かされたり、地元の人と交流していけるための大事な場所です。もっと予算や人的な配置を充実させてほしいと思います。
- 当学院の専門分野は珠算・英語・プログラミングである。特に珠算に関してはそれぞれの能力に合った公平な学びができているため、子どもたち一人ひとりが学ぶ楽しさ、できる喜びに満ちている。障害のある子に関してはもっと教育機関や市と連携して情報交換をし、その子に適した学びを学校でも提供してあげてほしい。その子にとってハードルの高い学びは萎縮させるだけであるように思う。当学院では算数障害の子でも無理のない指導で気長に指導すれば2桁×2桁の暗算ができるようになる。このようにどんな子どもでも可能性を秘めているということを多くの人に知ってもらいたい。
- 中学受験生に対してもっと大きな視野で将来を考えられるよう色々な人の成功体験や失敗体験を聞かせてあげてほしい。たとえば、志望校には行けなかったが、成功できた人の話など、失敗しても次があることを伝えてほしい。

- 子育て世帯が志摩市外に転居するのが多いから児童が減っている、産まれる赤ちゃんが減っているから早急に対策を打ってほしいと思う。現在の志摩市では共働きがほとんどなのでそれにあった子育てサポートが必要だ。特に観光業やサービス業、介護看護に携わる職種は多いはず、これらの業種は土日祝にサポート（数時間でも）子どもを預けられる場所を必要としています。どちらかが仕事で片親で子どもを何人かみている方も多い、サポート必要。
- 親子や、祖父母が子連れで行ける場所を作って欲しい。現在の支援センターは平日のみで使ったことがない。（平日は保育園があるから）
- 熱中症が年中警戒必要で子どもをつれて公園は無理、行けても季節限定される。天気や季節が関係なく、室内で遊べる場所を作って欲しい。
- 子育て相談できる場所がない（これは健康上の相談ではなく、親子関係や子どもの自立などの相談）ができれば良い。色々な意見がでましたのでよろしくお願いします。
- 子どもの活動に対する経済的支援
- これからは対ＩＴとかＡＩとか言っているが、それ以上に対人間の大切に取り組んで行くべきだと思います。
- 各地区の公園の設備の充実化。特にＢ＆Ｇでは、壊れている遊具、劣化している遊具が目立ちます。
- 病気のお子様を預かる受け皿として、働く保護者が安心して預けられるよう病児保育の充実。
- 私立保育園、私立認定こども園の人材確保、離職防止を目的として、志摩市外から転入された保育士の方へ「就職準備金」や、在職勤務年数に応じた「就労継続支援金」の支援。（三重県内でもすでに実施している市もある）
- 依頼会員のファミサポに対する不安要素は、他人の家に預けるところにあります。現在、未就学児に対して子育て支援センターでのサポートが増えつつあります。しかし、土、日、保育施設、小学校へ通う子どもを預かる場は提供会員宅のみとなるためにあるので、公共の場をサポートの場とすることで、安心して預けることができるのではないかと思います。
- 各地域に子どもたちが遊べる公園があると、保護者も一緒に安心して過ごせると思っています。子どもが身体を使っのびのびと遊ぶことができる場の提供。”
- 様々な支援が 本当に必要な家庭に届いているのか？また そうするためにどのように連携していくとよいのか？
- 情報弱者に対する 提供方法等考えていく必要があるのか。
- 子どもたちが宿題をしている様子を見ていますと、学力に差があることを感じます。保護者の方も忙しい方も多く、宿題の確認もなかなか難しい家庭もあるように見受けられます。放課後、学校で宿題や勉強を教えてくれるような方、そのような時間があると良いのではと思います。
- 現在、保育士不足が言われ志摩市においても、同等のことが言えます。改善されてきているとはいえ、児童クラブ以外の保育現場でも施設によっては職員の不足があり施設間で格差がある気がします。必要な時に保育士がおらず募集をかける現状なの

で、保育士の登録を行なってもらうなどしていけばどうかと思います。

- 出生率が激減しているので、企業や大学の分校、研究室などの誘致で、保護者が働ける施設の確保。
- 放課後児童クラブは、保護者が安心、児童が安全に通える支援員の時間と場所を学校内に確保してほしい。でも、他の放課後児童クラブを利用している児童は、利用しなくても利用出来ない場合もあるのか？と思いました。
- 人材不足は、慢性的な課題になっているのではと思います。職員が不足している施設とそうでない施設の差が毎年あります。職員を募集しても職員が集まってこないという話を他市町の職員から聞いたことがあり、志摩市もそうなりつつあるのではという危機感を持っています。志摩市の福祉施設で働くことの魅力をPRし、新たな人材確保につなげられればと思います。

志摩市全体に対する要望・提案

志摩市全体に対する要望・提案については、「各町に障がい者の会の設立」、「行政と一体となった施設」、「子どもの遊び場」、「地域の連携」、「学校の余裕教室の活用」、「土日の通常の預かり」、「マップの作成」、「移住環境整備」、「若者の人口流出」、「日本文化」、「教育と医療」、「子育て支援の充実」、「支援の仕方等学ぶ機会」、「情報提供」、「職業種の充実」、「介護の充実」、「気軽に楽しめる場所」、「子育て世帯の意見」、「市の活性化」、「安全に遊べる場所の整備」、「未来教室の拡充」などについて記載されています。

詳細につきましては、以下の通りとなります。

- 各町での障がい者の会を作り、五町で仲よく、交流が出来たら、障がい者の方も喜ぶと思います。先に立って障がい者の方たちを守ってくれる人がいたら、もっと障がい者の方たちも社会参加出来、楽しい人生を送れると思います。
- 行政と一体となった施設の策定をお願いします。例えば、防災関連では、南海トラフ地震の発災時の避難所がその地域の住民数を考慮せず、避難所の設定をしています。既存の施設のみで考えていると思われます。その顕著な例が、福祉避難所の考えです。社協の施設がある地域のみ設定され、社協施設が無い地域には有りません。防災担当課や健康福祉部が協力し地域の高台にある高齢者施設との提携や、発災後の人手が不足する場合は、子ども達が一助となり、支える事の準備を平時に整えておけば、陸の孤島となった場合の景色が違ってくると思います。子ども達には、発災時の行動、津波、発災後の行動、「ともに生きる」等々の指針を示す事で子ども達に、一人の人間としてやるべき事を考える機会になるのではと思います。
- 人口減少で学校が統合する事は、仕方ないと思いますが、子どもの声が地区で聞こえてこない事が、住んでいる者にとっては、とても寂しいのをわかっていますか？小学校、中学校を壊して何もないようにして、そのままにしているから、草ボーボーになってしまうから、子ども達も遊ぶ広場がない。だから家の中でゲームする。太陽の下で遊ばないから、ひ弱な子どもになりつつありますよね。子ども達の遊び場を造って下さい。外で元気に遊ぶ子ども達の笑い声が聞きたいです。ブランコ、スベリ台などの遊具は、なくて良いです。（錆びて撤去するのに多額の費用がいるから）広場だけで良いので、お願いします。
- 前記と同じ（児童の健全育成。子育て、保護者の就労など放課後児童クラブは地域に欠かせない資源であることと利用家庭はもとより、小学校地域の自治会、市内の活動団体との連携が大切であると考えている。）
- 前記と同じ（設問2の課題への提案として、こども家庭庁が勧めている学校の余裕教室の活用が望ましいので、要望する。現状の活動スペースの容量に限界を感じているため。児童の安全面、過ごしやすい場の整備の必要性がある。）
- 観光業従事者が多い志摩市。土日に子ども園での通常の預かりをしていただきたい。代わりに平日のお休みが増えてもよいと思う。
- 以前自分でチャレンジしようとして挫折しましたが、公園マップや海辺の遊び場マ

ップ（駐車場情報）などをまとめたものがあればいいなと思います。

- 地元民じゃないと子育てできない、しにくい雰囲気がある。子育てのために移住しようと思う地域ではないように思う。
- 若者の人口流出を防ぐ施策をお願いします。
- もともと素敵な町なのでもっと良くしていきたいです。そのために学ぶ場所として図書館を充実させて、読み、考え、話し合っていきたい。
- 日本の文化であるそろばんをもっと教育の場で取り入れてほしいが、専門である我々に指導を任せてもらえるとそろばんを教具として伝えることができる。交際交流などがあるときは、このそろばん文化を志摩市の子どもたちがデモンストレーションで披露することにより志摩市のアピールはもちろんのこと日本の文化の素晴らしさを伝えることができるのではないのでしょうか。”
- 何を切り捨てても、教育と医療を大切に。
- もっと子育てにお金を使ってほしい。
- 支援の必要なお子さんのサポートが増えてきています。センターでも勉強する機会を作っていますが、限度があります。支援の必要なお子さんに対する支援の仕方等勉強する機会をもっと作っていただけると、安心してサポートできるのではないかと思います。
- 子ども向けの施設やイベント情報、子どもづれでも気兼ねなく利用できる食事処とかの情報提供があると良い。
- 色々な種類の仕事があると良いなと思います。
- 介護にお金がかからないようになるといいなと思います。
- 地域の人たちが気軽に楽しめる場所づくり。
- 市内の子育て世帯に対して、様々な施策を打ち出していることには感謝します。それがどのように活用され、また思い描くよう進んでいかないところはないのか？など 実際の子育て世帯の声を聞いてみてください。
- 志摩市全体の活気づく場所が減っている。海があることの魅力をもっと発信できるイベント。ふるさとに魅力を感じる食事、場所の確保。
- 他県からお客が来た時、自慢できる海の幸でおもてなしする飲食店が、志摩町から激減していることを感じます。
- 子どもたちが安全に遊べる場所の整備
- 学習が、厳しい児童のために、未来教室が、実施されています。このことは、とてもいい取り組みだと思います。3年生以上なので、1．2年生の低学年もあるといいのではないかと思います。

